

# 議 事 録

## 厚生省、ハイリスク母児管理班 昭和55年度第1回総会 総会議事録

日 時 昭和55年11月11日 pm 2:00 ~ pm 6:00  
場 所 私 学 会 館

議 事

1. 班長挨拶 …………… 室 岡 一
2. 厚生省挨拶…………… 福 渡 靖
3. 出席者自己紹介
4. 研究事業計画と配分予定額……………室 岡 一 , 荒 木 勤
5. 研究計画…………… 各分科会長  
 研究計画を各分科会長に発表していたごく前に、各分科会単位で、約1時間の打合せを行った。  
 I 極小未熟児の発生予防と管理に関する研究…………… 坂 元 正 一  
 II 周産期死亡の原因と対策に関する研究…………… 武 田 佳 彦  
 III 分娩周辺における安全管理に関する研究…………… 室 岡 一  
 IV N I C U の運用管理に関する研究…………… 馬 場 一 雄  
 V 妊産婦死亡予防のための具体的対策に関する研究…………… 竹 村 喬  
 以上の研究課題につき、今後3年間の研究計画が発表され、活発な意見の交換があった。  
 6. 事務処理について……………荒 木 勤 , 越 野 立 夫  
 7. 主任研究者挨拶……………室 岡 一

### 出 席 者 名 簿

氏 名 所 属

植 松	稔	北里大学医学部
小 林 英 郎		北里研究所附属病院
金 岡 毅		福 岡 大 学
奥 山 和 男		昭 和 大 学
内 藤 達 男		国立小児病院
桑 原 慶 紀		東 京 大 学
竹 内 徹		淀川キリスト教病院
坂 元 正 一		東大産婦人科
木 谷 信 行		国立大蔵病院
石 川 富 子		都立心身障害者福祉センター
湯 沢 布 矢 子		厚生省地域保健課
須 川 豊		神奈川県立栄養短大
堀 口 貞 夫		愛 育 病 院

氏	名
池内	順子
竹村	壽彦
外西	武夫
橋本	孝雄
吉田	孝夫
矢内	博司
仁志	祐吾
石塚	惣平
久保	和彦
兼子	堯統
我妻	木嶋
鈴木	嶋
馬堤	下井
木岡	宮尾
小寺	大森
大森	工藤
工藤	浅田
浅田	桐月
望松	佐藤
佐藤	樋口
樋口	千村
柴井	中野
中新	志村
多前	田田
武前	武田
赤福	小松
小柳	渡川
西室	沼島
	岡

所	属
厚生省	
大阪大	
鹿児島市立病院	
聖マリア病院	
日大産婦人科	
昭和大学婦人科	
北里大学小児科	
国立東京東二病院小児科	
国立西埼玉中央病院	
埼玉医大産婦人科	
国立病院医療センター	
北大産婦人科	
名市大眼科	
国立大蔵病院産婦人科	
東京大学	
東京大学	
神奈川こども医療センター	
浜松医大	
福岡大	
鹿児島大学	
岡山大	
大阪大学	
弘前大学	
神戸大学	
関西医大(児)	
東北大	
秋田大	
山形大	
聖隷浜松病院	
日本大	
佐賀医大	
北里大学	
静岡こども病院	
都立築地産院	
鳥取大学	
高知医大	
日赤医療センター	
厚生省	
名古屋市大小児科	
富山医科薬大	
北里大	
日本医大	

氏 名		所 属	
荒越	木野	日 本	大 大
後 小	藤 宅	日 本	大 大
佐	藤	日 本	大 大
	立 正	日 本	大 大
	正 佳	日 本	大 大
	勤 夫	日 本	大 大
	紀 博	日 本	大 大
	子	日 本	大 大

## 第 1 回 班 会 議

### ( 妊 産 婦 死 亡 予 防 の た め の 具 体 的 対 策 に 関 す る 研 究 )

昭和 5 5 年 1 1 月 1 2 日 ( 火 ) 室 岡 班 ( ハイ リ ス ク 妊 娠 の 母 児 管 理 班 ) の 総 会 当 日 , 会 場 の 私 学 会 館 に 会 議 終 了 後 , 第 1 回 班 会 議 を か ね て 打 合 会 を 開 催 し た 。

出 席 者 : 竹 村 , 森 , 我 妻 , 品 川 ( 代 ) , 真 木 ( 代 )

#### 議 題

1. 本 年 度 ( 昭 . 5 5 年 度 ) 並 び に そ れ 以 降 ( 昭 . 5 6 , 5 7 年 度 ) の 研 究 計 画 に つ い て  
本 年 度 か ら の 課 題 が 「 妊 産 婦 死 亡 予 防 の 具 体 策 」 で あ る が , 席 上 , 前 年 ま で の 研 究 結 果 な ど を 参 考 に す る と と も に , 僻 地 ・ 離 島 や 都 市 部 の か か え る 問 題 点 や 死 因 調 査 委 員 会 の 設 置 な ど 話 題 に の ぼ っ た が , と り あ え ず 本 年 度 並 び に 次 年 度 以 降 の 研 究 計 画 を 次 の よ う に 決 め た 。
  - 1 ) 昭 和 5 5 年 度 研 究 計 画
    - ① 過 去 の 調 査 か ら , 臨 床 経 過 か ら み た 妊 産 婦 死 亡 の 原 因 は , 衛 生 統 計 の そ れ と 若 干 異 な る こ と が 明 ら か に さ れ て い る 。  
本 年 度 は 先 づ 個 票 に よ り 全 国 の 死 亡 原 因 を 探 る ( 交 渉 は 竹 村 が 当 る ) と と も に , 個 票 か ら ( 班 員 の 協 力 を 得 て ) 担 当 医 に 臨 床 経 過 を 聞 き 原 因 の 分 析 を 行 う 。
    - ② 上 記 の 調 査 成 績 を 約 1 0 年 前 に 行 な わ れ た も の と 比 較 検 討 を す る 。
    - ③ 前 年 に 引 続 き , 剖 検 例 か ら の 死 因 調 査 を 続 行 す る 。
  - 2 ) 昭 和 5 6 年 度
    - ① 前 年 に 引 続 き , 妊 産 婦 死 亡 の 原 因 を 調 査 分 析 す る 。
    - ② 妊 産 婦 死 亡 の 原 因 調 査 よ り , high risk 因 子 を 解 析 す る 。
    - ③ 上 記 調 査 か ら 得 ら れ た 問 題 点 を 分 析 し , 妊 産 婦 死 亡 予 防 の 対 策 を 検 討 す る 。
  - 3 ) 昭 和 5 7 年 度
    - ① 前 々 年 , 前 年 に 引 続 き 妊 産 婦 死 亡 の 原 因 を 調 査 , 分 析 す る 。
    - ② 妊 産 婦 死 亡 を 減 少 さ せ る た め の 具 体 策 を 検 討 す る 。 と く に 社 会 医 学 的 な 面 と 産 科 学 的 な 面 か ら 考 慮 し , 行 政 施 策 に 役 立 つ よ う に し た い 。
2. 次 回 会 議  
昭 和 5 6 年 1 月 ~ 2 月 に 大 阪 ま た は 東 京 で 行 う 。

## 第 2 回 班 会 議

### ( 妊産婦死亡予防のための具体的対策に関する研究 )

昭和 5 6 年 1 月 1 6 日 ( 金 ) 午後 1 時 ~ 4 時, 東京ステーションホテルで開催した。

出席者: 池内課長補佐, 竹村, 品川, 森, 我妻, 真木 ( 代 ), 樋口, 越野, 計 7 名

#### 議 題

##### 1. 研究事業計画の説明

分科会長 ( 竹村 ) 名で室岡班長に提出した, 昭和 5 5 ~ 5 7 年度研究事業計画, 昭 5 5 年度研究計画概要, 昭 5 5 年度具体的な研究計画並びに支出予定額内訳書について, 配布資料にもとづき, 竹村より説明, 全員これを了承した。

##### 2. 研究報告

###### 1) 全国妊産婦死亡調査について

妊産婦死亡例の個票閲覧について, 今までの厚生省母子衛生課並びに厚生省統計情報部との交渉経過を配布資料にもとづき竹村より説明。「個票の閲覧は困難であるが, コンピューターによるリストアップなら可能」ということで現在これを依頼中で, その資料入手次第, 妊産婦死亡に関連する因子を分析する予定。

###### 2) 各研究協力者より, 従来より行っている各地域の実態調査, 剖検例の検討, 諸外国の実情について現在までに得られた成績の報告あり。

###### 3) 死因調査の実施具体策

死因調査は 1 0 年前と異なり, 非常な困難を伴うので, 厚生省を通じて関係者の実施協力方を各方面に依頼してもらう。

日母には品川教授より協力方依頼してもらうこととなった。

##### 3. 研究報告書, 並びに決算報告書について

越野博士より, 総会, 報告書について

###### 1) 総会: 3 月 7 日, 東京において開催, 分科会長出席のこと。

###### 2) 研究報告書および決算報告書: 3 月 1 0 日まで ( 必着 ) に研究協力者より分科会長まで, 分科会長はこれをまとめて 3 月 2 0 日までに主任研究者まで提出のこと ( 詳細については近日中に書類を送付する ) との説明があった。

ただ, 3 月 7 日は竹村分科会長が海外出張予定なので, その際は, 3 月 7 日の総会に我妻博士に出席を依頼することとし, 研究報告書は 2 月 1 0 日までに分科会長 ( 竹村 ) 宛送付, 分科会長はこれをまとめて, 2 月 2 0 日頃までに我妻博士に送付することとする。

以上のことを全員了承した。

###### 3) 次年度の第 1 回班会議

昭和 5 6 年 1 月 2 ~ 4 日頃, 鹿児島において行う予定。

# ハイリスク妊娠管理班分娩時胎児管理研究

## 研究打合せ会議事録

1. 開催日時 昭和55年12月12日 午前10時～午後2時
2. 開催場所 東京駅 ルビーホール
3. 出席者 厚生省 長谷川 政 二  
鳥取大 前 田 一 雄  
北里大 新 井 正 夫  
慶応大 諸 橋 侃  
浜松大 寺 尾 俊 彦  
佐賀大 中 野 仁 雄

### 4. 議 事

- 1) 持ちよった分娩時胎児管理の効果に関する文献を回らんした。
- 2) 本日持ちよった文献ではなお不十分であり、さらに広く求める必要を認めた。
- 3) 文献調査項目(今後の調査内容)
  - (1) 分娩時胎児監視群と非監視群の比較
  - (2) 胎児予後
    - a 短期予後  
分娩中胎児と新生児について周産期死亡率  
Apgar スコア  
臍帯血 pH
    - b 長期予後  
CP, 運動, 言語発達, 情緒, IQ など
  - (3) 分娩時治療内容
    - a 経母体治療
    - b 急速遂娩: 帝切, 帝切率, 鉗子, 吸引
  - (4) 監視の方法
    - a 分娩監視装置による監視(内・外測)
    - b 併用したNST, CST
    - c 胎児末梢血 pH
  - (5) コストパフォーマンス  
No monitoring → CP と  
fetal monitoring → ? の比較
  - (6) 広義の fetal distress (胎児仮死) 発生率
  - (7) 日本と外国の比較
- 4) 収集文献の処理方法
  - (1) 研究報告書に記載
    - a 55年報告書: 収集文献数, 収集方法, 項目
    - b 56年報告書: 総説掲載(各方面専門委員会の検閲を終る)
    - c その内容



分科会議事録 ハイリスク母児管理班  
分娩周辺における児の安全管理に関する研究

昭和56年2月26日(木) pm3:00~pm6:00 於:私学会館

研究発表

1. latent fetal distress の診断と対策

Non stress test の意義と、さらに音刺激を加えての FHR パターンの解析による latent fetal distress の診断

日医大 松延康泰

2. Estetrol 非結合型、結合型のいずれにおいても母体末梢血ならびに尿中において妊娠末期に著増し、生成の亢進が認められた。latent fetal distress でもこれは正常域にあり必ずしも胎児機能を反映してはいない。しかし DHAS 負荷によって、潜在性の機能低下の診断が可能である。

日大 吉田孝雄

3. 妊娠中毒性や、胎児仮死と関連のある SFD 妊娠時における母体血中19種のステロイド値を測定し、その値を因子分析によって検討し、正常妊娠との判別にもっとも影響あるステロイドを抽出した。即ち、Estrisol, Progesterone,  $16\alpha\text{OH-Progesterone}$  である。

昭和大 矢内原 巧

4. 9項目の胎児胎盤機能検査の妊娠中毒症例の管理における意義を検討。

東大 桑原慶紀

5. 分娩時胎児管理に関する研究

鳥取大 前田一雄

i) 統一的研究

これまで報告された分娩管理法について全研究者を統一した研究を行う——これまでに報告された業績について文献調査を行う。最近6年間の国内外の文献を読む。

ii) 個別的研究

a. 前田一雄 他

胎児仮死自動診断法に関する研究

b. 新井正夫 他

分娩時胎児管理に関する研究——旁頸管ブロックによる分娩時麻酔

c. 諸橋 侃 他

安全分娩管理に関する研究——腹壁誘導胎児心電図に関する研究

d. 寺尾俊彦 他

胎児心拍数図自動解析

e. 中野仁雄 他

ハイリスク児の予測評価

6. 異常新生児の早期発見と対策に関する研究

聖マリア病院 橋本武夫



7. 臍帯血中ホルモンの測定による異常新生児早期発見の研究

富山医薬大 柳 沼 恣

8. 当病院における先天異常児を中心とする障害児の動向と、1つの出生前対策としての羊水輸送用バックの開発に関する研究

国立大蔵病院 木 谷 信 行

出席者名簿

聖マリア病院	橋 本 武 夫
国立大蔵病院	木 谷 信 行
日大産婦人科	吉 田 孝 雄
昭和大産婦人科	矢内原 巧
〃	齊 藤 裕
〃	樋 口 和 海
東大産婦人科	桑 原 慶 紀
浜松医大産婦人科	寺 尾 俊 彦
北里大学産婦人科	新 井 正 夫
〃	西 島 正 博
慶応大産婦人科	諸 橋 侃
佐賀医大産婦人科	中 野 仁 雄
鳥取大産婦人科	前 田 一 雄
〃	辰 村 正 人
厚生省母子衛生課	池 内 順 子
日医大産婦人科	室 岡 一
	荒 木 勤
	越 野 立 夫
	松 延 康 泰
	小 宅 正 博
	後 藤 正 紀

## 分科会議事録

### ハイリスク母児管理班 分科会 「極小未熟児の発生予防と管理に関する研究」

和年56年3月6日 午後2時～6時30分

於：学士会館 本郷分館

1. 挨拶 分科会長 坂元正一

2. 研究報告(発表7分, 討論5分)

- 1) 子宮内発育の実態調査 座長 坂元正一  
浅田昌宏(大阪大学 倉智敬一代)  
久保惣平(国立西埼玉中央病院)  
仁志田博司(北里大学)

超音波断層法による胎児の子宮内発育の判定法, 及び妊娠週数別の出生時体重の標準値について報告された。在胎週数の不正確なデータによる値のバラツキが問題となった。

- 2) 胎児発育度の判定と分娩誘導時期に関する研究 座長 坂元正一  
岡井崇(東大 坂元正一 協同研究者)  
工藤尚文(岡山大学)  
兼子和彦(埼玉医科大学)  
望月真人(神戸大学)  
佐藤章(東北大)

ハイリスク妊娠での最適な分娩誘導時期を決定するために, 妊娠週数の正確な算定, 内分泌学的な成熟度の判定, 超音波断層法による児体重の推定, 頸管の熟化, 破水例でのRDS発生頻度など多方面からの研究報告がなされた。

- 3) 早期陣痛発来防止に関する研究 座長 千村哲朗  
千村哲朗(山形大学)  
木下勝之(東大, 佐藤和雄 協同研究者)  
内藤達男(国立小児病院)

子宮収縮抑制剤である $\beta_2$ -Stimulants, Indomethacinの基礎的研究, 臨床効果, 副作用, 胎児への影響について報告された。

- 4) 極小未熟児の哺育限界と長期予後 座長 奥山和男  
奥山和男(昭和大学)  
赤松洋(日赤医療センター)

低出生体重児及び極小未熟児の死亡率と死因の分析から, その哺育限界について検討された。

3. 諸報告及び事務連絡 事務会計幹事 越野立夫

分科会出席者名簿

出席者名	所 属
坂 元 正 一	東京大学
佐 藤 和 雄	東京大学
桑 原 慶 紀	東京大学
木 下 勝 之	東京大学
岡 井 崇	東京大学
堤 治	東京大学
椋 棒 正 昌	東京大学
赤 松 洋	日赤医療センター
工 藤 尚 文	岡山大学
岸 本 康 夫	岡山大学
望 月 真 人	神戸大学
内 藤 達 男	国立小児病院
千 村 哲 朗	山形大学
佐 藤 章	東北大学
劉 雪 美	東北大学
仁志田 博 司	北里大学
浅 田 昌 宏	大阪大学
久 保 惣 平	国立西埼玉病院
兼 子 和 彦	埼玉医科大学
奥 山 和 男	昭和大学
越 野 立 夫	日本医科大学

以上21名及び厚生省代表1名が出席した。

厚生省 ハイリスク母児管理班  
昭和55年度 第2回総会及び評価委員会、議事録

日時 昭和56年3月7日(土) am10:00~pm4:00  
場所 全共連ビル 1階第2会議室

出席者 厚生省母子衛生課 池内順子  
主任研究者 室岡一  
評価委員 山村博三, 小川次郎  
分科会長(幹事) 坂元正一  
武田佳彦  
馬場一雄  
竹村喬  
分担研究者(班員) 倉智敬一(代理, 浅田昌宏)  
千村哲朗  
奥山和男  
須川豊  
前田一雄  
橋本武夫  
神保利春  
馬場一雄  
松村忠樹  
植村恭夫  
小宮弘毅  
研究協力者及び協同研究者  
桑原慶紀  
荒木勤  
越野立夫  
小宅正博  
馬淵是純

- 議事
1. 主任研究者挨拶 ..... 室岡 一
  2. 厚生省挨拶 ..... 池内 順子
  3. 研究発表
    - I 分娩周辺における児の安全管理に関する研究 分科会長(司会)室岡 一
      - ① latent fetal distress の診断と対策 室岡 一
      - ② 分娩時胎児管理に関する研究 前田 一雄
      - ③ 異常新生児の早期発見と対策に関する研究 橋本 武夫
    - II 周産期死亡の原因と対策に関する研究 分科会長(司会)武田 佳彦
      - ① 周産期死亡の発生防止に関する疫学的研究 武田 佳彦
      - ② 周産期死亡の対策に関する研究 神保 利春

- ③ 妊娠から分娩、乳幼児期にいたる疾患の追跡データに基づく母子健康管理システムの研究 須川 豊
- Ⅲ NICUの運用管理に関する研究 分科会長(司会)馬場 一雄
- ① ハイリスク児の哺育に関する研究 馬場 一雄
- ② 合併症の予防治療に関する研究 松村 忠樹
- ③ 未熟網膜症に関する研究 植村 恭夫
- ④ ハイリスク児の医療システムに関する研究 小宮 弘毅
- Ⅳ 極小未熟児の発生予防と管理に関する研究 分科会長(司会)坂元 正一
- ① 子宮内胎児発育の実態調査 倉智 敬一
- ② 胎児発育度の判定と分娩誘導の時期に関する研究 坂元 正一
- ③ 早期陣痛発来防止に関する研究 千村 哲朗
- ④ 極小未熟児の哺育限界と長期予後 奥山 和男
- Ⅴ 妊産婦死亡予防のための具体的体策に関する研究 分科会長(司会)竹村 喬
4. 評価委員による研究の評価…………… 山村 博三 , 小川 次郎
5. 主任研究者挨拶…………… 室岡 一

議事録：上記スケジュールにより各分担研究者より昭和55年度研究報告を資料にもとづき発表され、活発な質疑応答があった。

評価委員の評価：本年度からあらたに厚生省ハイリスク母児管理班が発足し、その評価委員として今後3年間研究成果をみつめて行きたい。本年は初年度であるが非常に興味深い研究が多数示されたがまだ結論まではいたっていない。またこの研究が母児の福祉にどう役立て、さらに行政面でいかに反映出来るかが問題であろう。このようなことを念頭におき、今後2年間でよりよい研究成果をあげてもらおうよう希望する。

## NICUの運用管理に関する研究

### 議 事 録

日 時： 昭和56年2月23日

場 所： サンシャインプリンスホテル

出席者： 馬 場 一 夫 (日 大)	多 田 裕 (都立築地産院)
井 村 総 一 ( " )	志 村 浩 二 (静岡こども病院)
高 橋 滋 ( " )	小 宮 弘 毅 (神奈川こども医療センター)
高 田 昌 亮 ( " )	柴 田 隆 (聖隷浜松病院)
峯 真 人 ( " )	堀 口 貞 夫 (愛育病院)
松 村 忠 樹 (関西大)	馬 嶋 昭 生 (名市大)
山 内 逸 郎 (国立岡山病院)	荒 木 勤 (日医大)
植 村 恭 夫 (慶 大)	池 内 順 子 (厚生省母子衛生課)

各研究者より下記分担課題について本年度の研究成果が発表され一題ずつ、活発な質疑応答がなされた。また、事務的事項として本年度の研究報告書ならびに会計報告書作成について再確認がなされた。

1. ハイリスク児の哺育に関する研究 (馬場一雄, 志村浩二, 多田裕)
2. 合併症の予防治療に関する研究 (松村忠樹, 山内逸郎, 井村総一, 三河春樹)
3. 未熟網膜症に関する研究 (植村恭夫, 原田政美, 馬嶋昭生, 大島健司, 永田誠)
4. ハイリスク児の医療システムに関する研究 (小宮弘毅, 柴田隆, 堀口貞夫)